

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 1 年 9 月 調査結果 —

(平成 1 1 年 1 0 月 4 日)

○調査期間：平成 1 1 年 9 月 2 0 日～2 7 日

○調査対象：全国の 3 9 0 商工会議所が 2 6 3 3 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 6 製造業 6 4 4 卸売業 2 4 0
小売業 7 5 9 サービス業 6 0 4

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業部 調査課 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6、7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成11年9月調査結果のポイント】

マイナス幅の縮小傾向は一進一退で推移

- 9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース。以下同じ）は建設業、製造業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、DI値は前月（▲42.5）とほぼ同水準の▲43.4となった。昨年8月に調査開始以来の最低値（▲66.9）を記録した後、本年4月までマイナス幅の縮小が続いたが、その後、マイナス幅の縮小傾向は一進一退の状況が続いている。中小企業の景況は下げ止まり、改善の傾向も一部窺われるものの、はっきりとした回復への足取りが見えない状況といえる。マイナス水準での推移は平成3年4月以来102ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来97ヶ月連続となっている。

建設業では、足下の状況について「一連の対策の効果から、前年同月を上回ったが、本格的な回復ではなく依然厳しい状況」や「景況感に明るさが見えてきたが実態面は引き続き停滞」などの見方が寄せられた。また、「取引工事量は多少増加したが、受注競争はますます激しく採算面では厳しい」（電気工事）との声も寄せられている。製造業では、業況低迷等の指摘が多い一方で、受注増や景況感改善の指摘もあるが、「採算面はギリギリ」（金属加工）との声や「先行きに不安材料が多く、安定するにはもう少し時間がかかりそう」（印刷）などの見方が寄せられている。また、住宅関連からは「着工件数が増え、大手住宅メーカーの場合は建具やサッシまで本部が一括注文したものが現場に送られてくるので、地元業者には殆ど注文がない」（建具）との声もあった。卸売業では、「個人消費の低迷による受注減で大変厳しい状況」（衣料卸）など業況低迷が指摘されるほか、「景況の回復傾向を感じたものの、数字的には前年並みにとどまっており上向きにはつながっておらず」（食品卸）、「慎重に動向を見極めたい」（総合卸）といった声も寄せられた。小売業では、「生活必需品以外の購買が下がっており、『必要な物以外は買わない』という状況が顕著」（大型店）をはじめ個人消費の低迷を指摘する声が続く。また、厳しい残暑の影響から「秋物（季節）商品の売上が鈍い」との声が多く寄せられたほか、「食中毒も危惧されて生鮮物が不振となった」との声も寄せられている。サービス業では、旅館、飲食を中心に客数の減少や客単価の下落による業況悪化の指摘が多く寄せられている。また、輸送からは「荷動きの低迷に加えて、燃料油の上昇傾向もあり、経営的には厳しい状況」との声も寄せられた。

売上面では、建設業、製造業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月（▲38.8）とほぼ同水準の▲39.3となった。採算面でも、建設業、製造業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月（▲41.9）とほぼ同水準の▲42.5となった。

- 向こう3ヶ月（10～12月）の先行き見通しは全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲29.3と現状（▲43.4）より好転するとの見方となっている。
- 景況に関する声、当面する問題としては、建設業を中心に第2次補正予算に対する期待が多く寄せられた。

【業況についての判断】

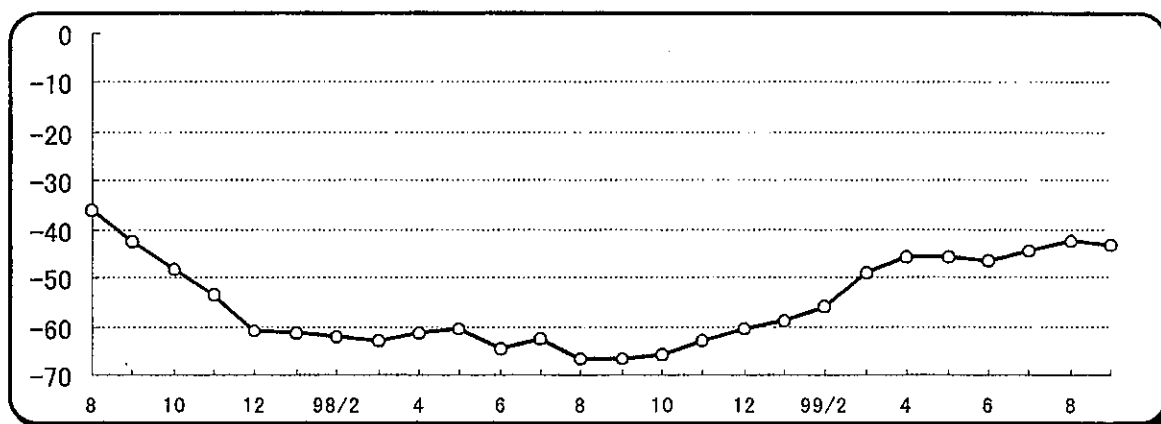
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース。以下同じ）は建設業、製造業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、DI値は前月（▲42.5）とほぼ同水準の▲43.4となった。昨年8月に調査開始以来の最低値（▲66.9）を記録した後、本年4月までマイナス幅の縮小が続いたが、その後、マイナス幅の縮小傾向は一進一退の状況が続いている。中小企業の景況は下げ止まり、改善の傾向も一部窺われるものの、はっきりとした回復への足取りが見えない状況といえる。マイナス水準での推移は平成3年4月以来102ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来97ヶ月連続となっている。
- 向こう3ヶ月（10～12月）の先行き見通しは全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲29.3と現状（▲43.4）より好転するとの見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	11年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲45.9	▲46.0	▲46.7	▲44.6	▲42.5	▲43.4	▲29.3 (▲52.1)
建設	▲45.4	▲41.2	▲45.1	▲41.2	▲46.7	▲40.1	▲29.7 (▲50.2)
製造	▲50.5	▲49.7	▲48.6	▲43.1	▲40.5	▲40.0	▲24.2 (▲54.6)
卸売	▲35.6	▲41.7	▲46.2	▲42.0	▲32.8	▲40.2	▲28.2 (▲50.0)
小売	▲46.8	▲51.0	▲47.3	▲50.2	▲48.6	▲51.1	▲35.5 (▲54.3)
サービス	▲44.3	▲40.2	▲45.1	▲42.6	▲38.5	▲41.4	▲27.6 (▲48.6)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヶ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年や9月の先行き見通しDI<以下同じ>

≪業況DI（全産業・前年同月比）の推移≫



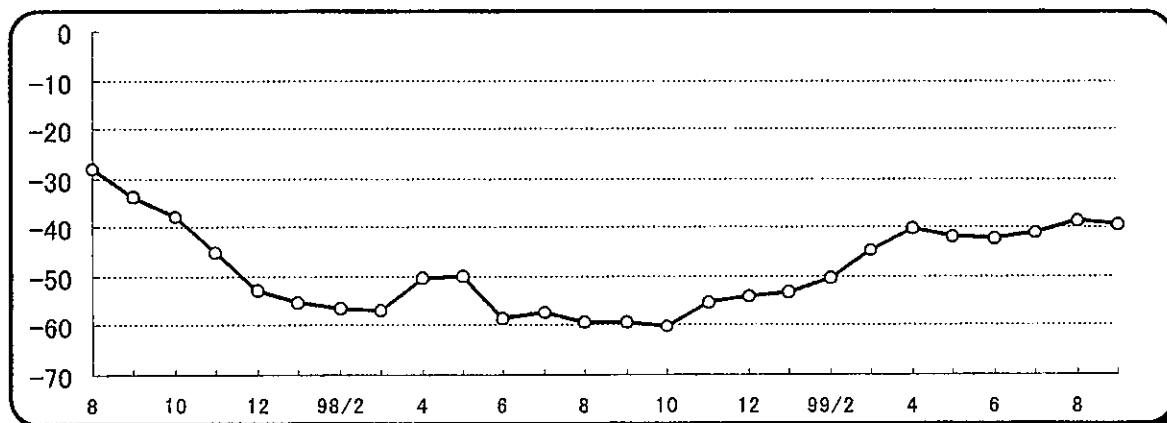
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、建設業、製造業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月（▲38.8）とほぼ同水準の▲39.3となった。
- 向こう3ヶ月（10～12月）の先行き見通しは全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲24.7と現状（▲39.3）より好転するとの見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	11年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲ 40.2	▲ 41.8	▲ 42.4	▲ 41.2	▲ 38.8	▲ 39.3	▲ 24.7 (▲ 43.2)
建設	▲ 36.5	▲ 40.6	▲ 39.2	▲ 35.3	▲ 43.2	▲ 37.0	▲ 26.7 (▲ 42.1)
製造	▲ 48.8	▲ 43.8	▲ 47.4	▲ 39.6	▲ 38.5	▲ 33.3	▲ 15.9 (▲ 46.6)
卸売	▲ 27.1	▲ 31.3	▲ 42.0	▲ 33.1	▲ 25.3	▲ 35.1	▲ 21.8 (▲ 40.0)
小売	▲ 37.3	▲ 45.5	▲ 43.6	▲ 49.3	▲ 47.4	▲ 50.9	▲ 32.3 (▲ 44.0)
サービス	▲ 42.1	▲ 39.8	▲ 37.8	▲ 40.1	▲ 31.0	▲ 35.2	▲ 25.2 (▲ 40.4)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



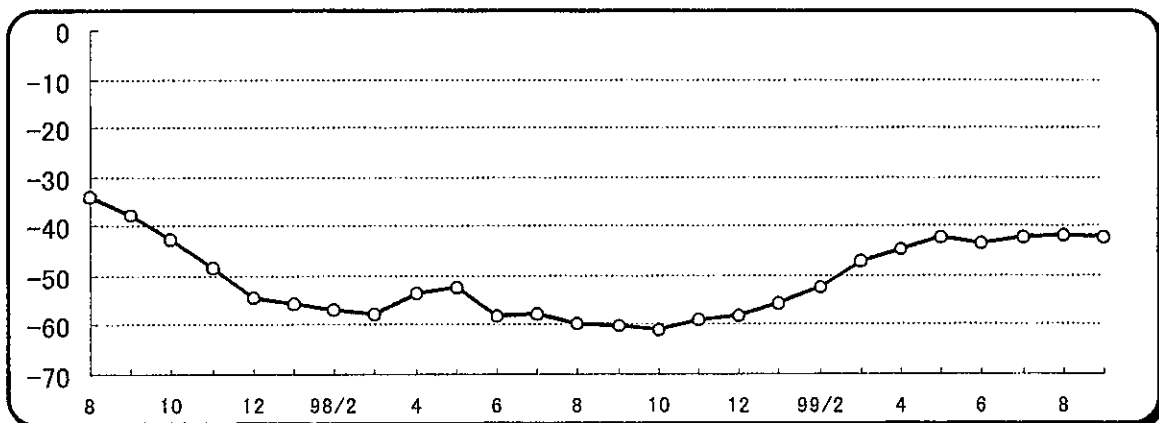
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、建設業、製造業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月（▲41.9）とほぼ同水準の▲42.5となった。
- 向こう3ヶ月（10～12月）の先行き見通しは全産業合計の業況DI（今月比べベース）が▲30.9と現状（▲42.0）より好転するとの見方となっている。

採算DI（前年同月比）の推移

	11年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲44.6	▲42.5	▲43.4	▲42.5	▲41.9	▲42.5	▲30.9 (▲46.6)
建設	▲44.4	▲41.9	▲44.9	▲41.5	▲48.8	▲45.7	▲35.0 (▲47.4)
製造	▲55.1	▲47.3	▲49.3	▲46.2	▲44.4	▲40.7	▲27.3 (▲51.6)
卸売	▲32.4	▲36.0	▲42.8	▲38.1	▲35.6	▲40.8	▲30.0 (▲36.7)
小売	▲40.9	▲44.5	▲41.0	▲44.3	▲45.3	▲45.6	▲33.6 (▲46.6)
サービス	▲43.0	▲37.3	▲39.2	▲38.6	▲32.4	▲39.1	▲29.3 (▲44.5)

〈採算DI（全産業・前年同月比）の推移〉



(参考)

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	11年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	0.5	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 2.8	▲ 2.0	▲ 3.7 (▲ 4.5)
建設	3.7	2.8	0.7	1.8	1.4	1.4	▲ 2.1 (▲ 1.6)
製造	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 0.6	▲ 4.7	▲ 4.2	▲ 4.8	▲ 7.4 (▲ 10.8)
卸売	7.9	2.8	9.2	9.5	▲ 2.9	1.8	3.5 (▲ 0.7)
小売	2.7	1.1	0.4	1.9	1.1	0.8	▲ 0.4 (▲ 1.3)
サービス	▲ 3.0	▲ 3.9	▲ 5.5	▲ 4.9	▲ 9.4	▲ 6.3	▲ 7.9 (▲ 5.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業、サービス業で下落超感強まる。

【先行き見通しD I】卸売業以外の全業種で上昇超感強まる見通し。

従業員D I (前年同月比) の推移

	11年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	▲ 15.8	▲ 17.8	▲ 15.9	▲ 15.9	▲ 15.2	▲ 14.7	▲ 10.1 (▲ 17.2)
建設	▲ 23.2	▲ 25.3	▲ 24.1	▲ 21.6	▲ 25.4	▲ 25.3	▲ 12.2 (▲ 24.3)
製造	▲ 25.8	▲ 27.0	▲ 25.5	▲ 24.4	▲ 19.7	▲ 18.4	▲ 15.8 (▲ 25.3)
卸売	▲ 13.0	▲ 14.2	▲ 10.3	▲ 15.4	▲ 17.8	▲ 15.9	▲ 8.4 (▲ 13.6)
小売	▲ 7.4	▲ 11.2	▲ 9.8	▲ 9.9	▲ 9.7	▲ 9.2	▲ 6.9 (▲ 15.3)
サービス	▲ 11.2	▲ 12.6	▲ 9.9	▲ 10.4	▲ 8.8	▲ 9.8	▲ 8.6 (▲ 9.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】サービス業以外の全業種で過剰超感弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で過剰超感弱まる見通し。

【平成11年9月の景気キーワード】

○ 下げ止まり感

景況感について、受注の減少などによる業況の低迷を指摘する声が多く寄せられる一方で、「企業間格差があるが、明るさに向けた改善傾向が窺える」（岡崎・自動車部品）といった声が寄せられている。しかしながら、「景気の底入れは感じているものの、上昇感はない」（豊橋・商店街）をはじめ「売上は好調の感はあるが、仕入れ単価の上昇により採算は低迷」（境港・水産品）、「受注増加の兆しがあるが、採算面はギリギリ又はマイナス状態であり回復基調とはいえない」（相模原・金属加工機械）、「全体にやや持ち直し感があり、売上も多少上向きだが、先行きに不安材料が多く安定するには時間がかかりそう」（町田・印刷）など、回復へのはっきりとした動きがみられないとの声も多く寄せられている。

○ 円高・原油高

昨今の円高に関して、「中国製の廉価な繊維機械が市場に出てきており、現在の円高は価格競争力の面から非常に厳しい」（金沢・繊維機械製造）、「最近の円高により製品価格下落、弱含みに傾きつつある」（御坊・製材）をはじめ円高の影響が指摘されている。また、原油価格の上昇に関しては、「原油価格の上昇は円高を上回り、石油製品のアップは確実な状況」（宇部・石油卸）、「原油高による燃料費が上昇」（伊万里・陶磁器）のほか、運輸から「荷動きの低調さ、値下げ要請の厳しさ等は相変わらずの状態。加えて、燃料費が上昇傾向であり、経営的には苦しい局面を迎えることとなる」（須賀川、石岡、豊橋他）との声も寄せられている。

○ 秋物不振

小売業を中心に、「本来なら初秋物の売れ行きが中心であるが、残暑により売れ行き不振」（土浦）、「主力の秋物衣料を早めに仕込んだが全くの裏目」（豊橋）をはじめ、厳しい残暑の影響による秋物商品の不振を指摘する声が多く寄せられた。また、個人消費の低迷の指摘も引き続き多く、「個人消費の縮小は引き続き継続している。生活必需品以外の購買が下がっており『必要な物以外買わない』という消費者の状況が顕著に表れている」（館山）、「来客数は昨年並みであったが消費者の購買意欲が低く売上が思うように伸びなかった」（赤穂）などの声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
11年7月	下げ止まり感	消費の低迷	
8月	下げ止まり感	消費の低迷	天候不順
9月	下げ止まり感	円高・原油高	秋物不振

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。足下の状況について「一連の対策の効果から、前年同月を上回ったが、本格的な回復ではなく依然厳しい状況」や「景況感に明るさが見えてきたが実態面は引き続き停滞」などの見方が寄せられた。また、「取引工事量は多少増加したが、受注競争はますます激しく採算面では厳しい」（電気工事）との声も寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。業況低迷等の指摘が多い一方で、受注増や景況感改善の指摘もあるが、「採算面はギリギリ」（金属加工）との声や「先行きに不安材料が多く、安定するにはもう少し時間がかかりそう」（印刷）などの見方が寄せられている。また、住宅関連からは「着工件数が増えても、大手住宅メーカーの場合は建具やサッシまで本部が一括注文したものが現場に送られてくるので、地元業者には殆ど注文がない」（建具）との声もあった。
卸 売	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「個人消費の低迷による受注減で大変厳しい状況」（衣料卸）など業況低迷が指摘されるほか、「景気の回復傾向を感じたものの、数字的には前年並みにとどまっており上向きにはつながっておらず」（食品卸）、「慎重に動向を見極めたい」（総合卸）といった声も寄せられた。
小 売	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「生活必需品以外の購買が下がっており、『必要な物以外は買わない』という状況が顕著」（大型店）をはじめ個人消費の低迷を指摘する声が続く。また、厳しい残暑の影響から「秋物（季節）商品の売上が鈍い」との声が多く寄せられたほか、「食中毒も危惧されて生鮮物が不振となった」との声も寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。旅館、飲食を中心に客数の減少や客単価の下落による業況悪化の指摘が多く寄せられている。また、輸送からは「荷動きの低迷に加えて、燃料油の上昇傾向もあり、経営的には厳しい状況」との声も寄せられた。

(参考)

【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では、全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、北海道、東北、北陸信越、関東、東海の5ブロックで前月水準を下回り、近畿、中国、四国、九州の4ブロックで前月水準を上回った。

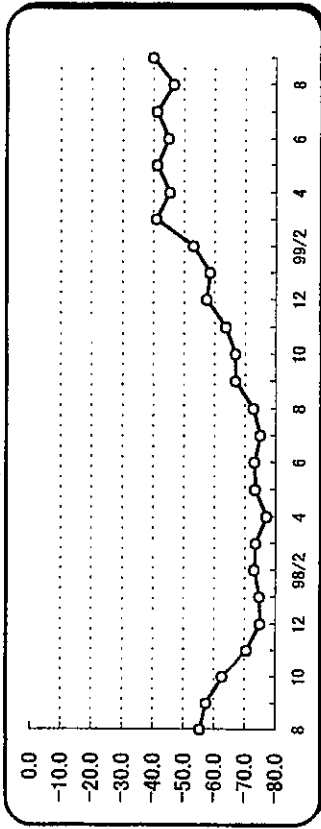
○ ブロック別の向こう3ヶ月の業況先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。北海道を除く全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

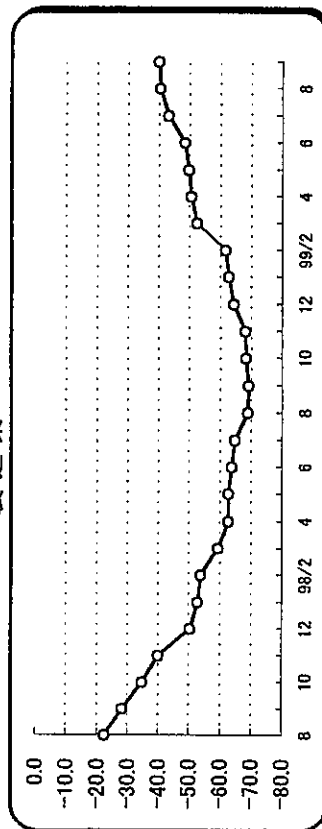
	11年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全 国	▲ 45.9	▲ 46.0	▲ 46.7	▲ 44.6	▲ 42.5	▲ 43.4	▲ 29.3 (▲ 52.1)
北海道	▲ 29.2	▲ 29.6	▲ 23.0	▲ 22.4	▲ 13.5	▲ 18.5	▲ 26.1 (▲ 46.6)
東 北	▲ 46.1	▲ 42.4	▲ 38.1	▲ 37.7	▲ 34.6	▲ 36.6	▲ 34.4 (▲ 56.6)
北陸信越	▲ 51.1	▲ 46.2	▲ 46.7	▲ 49.7	▲ 37.1	▲ 51.0	▲ 27.7 (▲ 54.6)
関 東	▲ 46.2	▲ 50.5	▲ 46.1	▲ 42.7	▲ 43.0	▲ 44.5	▲ 26.1 (▲ 50.7)
東 海	▲ 47.2	▲ 46.3	▲ 50.9	▲ 52.1	▲ 47.3	▲ 51.6	▲ 35.4 (▲ 53.7)
近 畿	▲ 53.6	▲ 51.8	▲ 57.1	▲ 55.9	▲ 54.8	▲ 50.0	▲ 30.9 (▲ 54.9)
中 国	▲ 52.9	▲ 48.9	▲ 53.6	▲ 47.1	▲ 50.3	▲ 49.7	▲ 34.4 (▲ 58.7)
四 国	▲ 47.5	▲ 51.3	▲ 56.2	▲ 49.6	▲ 53.6	▲ 45.9	▲ 22.9 (▲ 34.2)
九 州	▲ 34.2	▲ 35.1	▲ 42.3	▲ 38.8	▲ 40.6	▲ 34.5	▲ 28.9 (▲ 52.7)

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

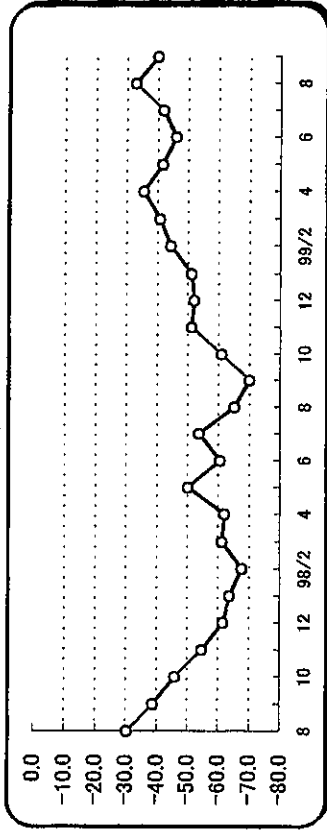
建設業



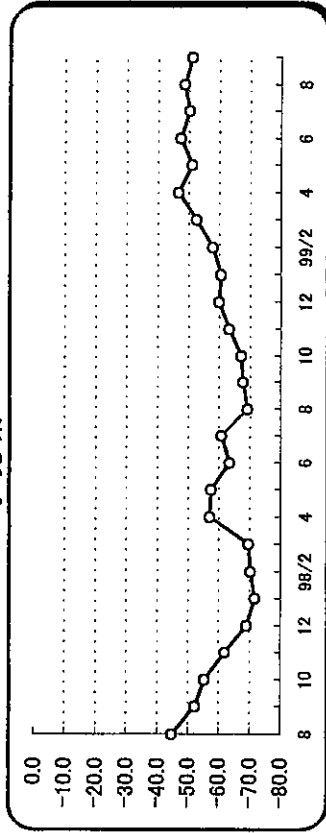
製造業



卸売業



小売業



サービス業

